

# 月刊 水試ニュース

発行所：愛知県水産試験場（本場）

566号 令和5(2023)年9月

## 水産試験場公開デーを開催します

### —水試の秋祭り！楽しみながら水産業を学ぼう！—

企画情報部 企画普及グループ

試験研究の成果等を紹介し、水産業への関心を高めていただくため、水産試験場公開デーを開催します。子供から大人まで楽しめるように秋祭りの縁日のような企画を用意しましたので、ぜひ、ご来場ください！（入場無料）

- 1 日時：令和5年10月21日（土曜日）午前10時から午後4時まで
- 2 場所：愛知県水産試験場（蒲郡市三谷町若宮97）
- 3 主な内容

- (1) 試験研究成果の紹介、研究施設等の見学
  - ・水産試験場の試験研究成果の紹介、研究施設見学、観測機器の展示、愛知県の水産業を紹介するビデオ上映
- (2) 参加・体験型企画
  - ・ちりめんモンスターを探せ！、自分で作ろう海苔すき体験、大きな水槽で潮干狩り！、VRゴーグルによる漁業体験
- (3) 展示、観察
  - ・小さな水族館、海のいきものタッチプール、五感を使ってウナギを堪能
- (4) お楽しみコーナー
  - ・狙って学ぶサーモン射的！、遊んで学ぶプランクトン縁日、愛知のおさかなクイズ、目指せ爆釣！おさかなカード釣り、弥富の金魚すくい（小学生限定）
- (5) 漁業団体によるPRと即売
  - ・お土産ゲット！シラスすくい（数量限定）
  - ・「愛知のり」、「絹姫サーモン加工品」等の販売

※内容は、変更することがあります。



図1 海苔すき体験



図2 金魚すくい

## 三河湾への河川水と外海水の流入

漁場環境研究部 漁場保全グループ

三河湾では、湾奥で河川水流入に伴うプランクトンの増殖や、湾口で外海水の流入による透明度の増加などの海況変化が、梅雨の時期や台風後の出水時などにみられることがあり、8月17日の台風後にはその傾向が顕著に現れていました。渥美湾奥部では、河川水の流入量の増加に伴い塩分低下がみられ、その塩分低下域ではプランクトン密度も高くなり、珪藻類を主体とする赤潮が形成されていきました（図3）。また、赤潮や河川水由来の濁りで透明度が1mと低い調査点もありました（図4）。一方、湾口部では、外海水の流入により塩分が高く、プランクトンは少なく、透明度は6m以上の調査点もありました。河川水や外海水の流入はプランクトンの増殖や貧酸素水塊の動向などに影響を及ぼすことから、今後も引き続きモニタリングにより海況把握に努めていきます。

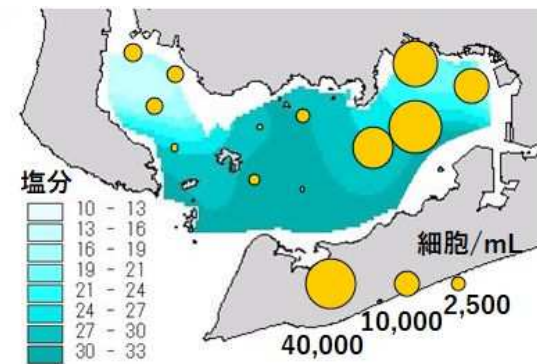


図3 表層塩分とプランクトン密度（黄○）

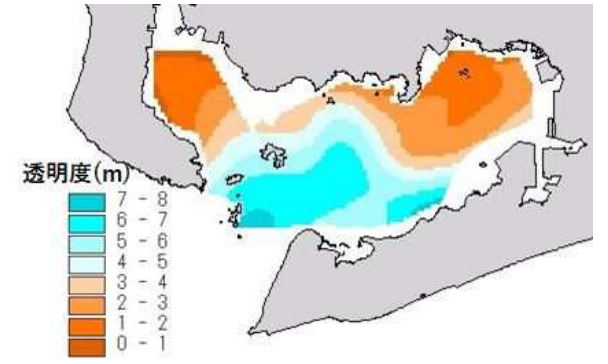


図4 透明度

## 漁業者とともにシャコの資源調査や資源管理を行っています

漁業生産研究所 海洋資源グループ

愛知県の小型底びき網の主要漁獲物であるシャコは、2019年以降、特に不漁が続いていましたが、今期は過去3年に比べると、春から夏にかけて好調を維持しています（図5）。

当グループでは漁業調査船「海幸丸」や漁船により、季節ごとに伊勢湾15地点で底魚資源調査を実施しており（図6）、シャコを含む小型個体の加入状況をモニタリングしています。前年度の夏季調査で小型個体が漁場に広く分布していることが分かり、これが今年度の好調につながったと考えられます。また、漁業者は資源調査の結果に応じて、冬季の水揚げ制限を実施する自主的な資源管理に取り組んでおり、今後も漁業者と連携し、資源量のモニタリング、資源管理を継続していきます。

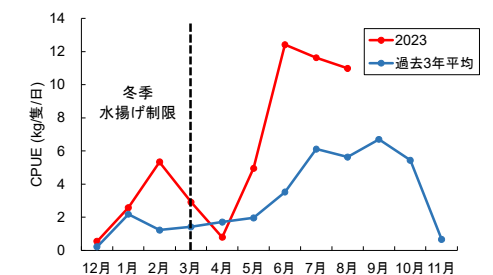


図5 シャコの漁獲量（豊浜市場）



図6 海幸丸による底魚資源調査

